

## 年長さんがアルミ缶を回収してリサイクル ～ほなみの杜保育園～

宮城県大崎市にあるほなみの杜保育園では、2012年3月、「そらべあ発電所」を寄贈されたことをきっかけに、子どもたちと一緒にエコ活動に取り組み始めました。当初はペットボトルのキャップと牛乳パックの回収、2014年からはアルミ缶の回収を行っています。

「普段はゴミとして捨てられる物もリサイクルによって資源になり、地球温暖化の防止に繋がることを教えられたら…ということから始めました」と、話すのは同園の青沼克之さん。

具体的には、①年長組のお当番が前日にアルミ缶回収ボックスを玄関に出す。②当日に家庭(全園児対象)からアルミ缶を持ってくる。③集まったアルミ缶を潰して袋にまとめる。④袋を保管場所へ運ぶ

…といった手順です。

「リサイクル業者に買い取ってもらったお金は、園外活動やお泊り会などの資金に充てられ、子どもたちのために役立っています」(青沼さん)。

ご家庭からも『次の回収日はいつですか?』と聞かれるようになり、子どもも大人も環境意識は着実に高まっているようです。



卒園児が作ってくれた  
アルミ缶回収BOX



集めたアルミ缶を踏み潰して…



…袋に詰める年長さん

そらべあ基金  
事務局の  
つぶやき

### 事務局長に就任しました

そらべあサポーターズクラブのみなさん、こんにちは。短い秋が過ぎて、季節はもう冬ですね。

8月より事務局長に就きました大島です。以前から、理事として事務局のサポートをしてきましたが、実際に事務局へ入ってみると、仕事ってたくさんあるものですね。これからもそらべあの活動をさらに活発にしていける努力をしてみたいと思いますのでよろしくお願い致します。

さて、そらべあキャラクターの生みの親、Shinzi Katoh先生が出展する恒例のギフトショーへ行ってきました。数あるブースの中でも、Shinzi Katoh先生は大変人気があり、そらべあグッズはもちろん、他のキャラクター商品も素敵なものばかり。事務局新メンバーの田中さんも、お気に入りのそらべあランチボックスでお弁当を持っています。みなさんも可愛いそらべあグッズをぜひ使ってみてはいかがでしょうか。



Shinzi Katoh雑貨オンラインショップ▼  
<http://shinzikatoh.shop-pro.jp>

### そらべあサポーターズクラブ

プレミアムサポーター：ソニー損害保険(株)  
オフィシャルサポーター：ソニー生命保険(株)、(株)Forchile  
サポーター：(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント、(株)毎日新聞社  
応援団：6社  
個人・ファミリーサポーター：29名  
(2016年11月30日現在)

読み終わったら、捨てずに回し読みしてね。



### そらべあ便り vol.29

2016年12月発行  
編集：青木一夫  
デザイン：草薨聡子

NPO 法人そらべあ基金  
〒105-0004  
東京都港区新橋2-5-6  
大村ビル8F  
TEL：03-3504-8166  
FAX：03-5157-3178  
<http://www.solarbear.jp>

# そらべあ便り

Sorabear Newsletter | Vol.29

寒い冬も  
自然エネルギーで  
元気いっぱい



[www.solarbear.jp](http://www.solarbear.jp)

©Shinzi Katoh

REPORT

## 市長にも出席いただき、そらべあ発電所贈呈式を実施 ～千葉県流山市 幼児教育支援センター附属幼稚園～

この秋、新たに56基目の「そらべあ発電所」が完成しました。寄贈されたのは千葉県流山市にある「流山市幼児教育支援センター附属幼稚園」です。

9月13日に同園で行われた完成記念式典には、流山市長の井崎義治様にもご列席いただき、51名の園児たちが参加しました。今回の太陽光発電設備は、ソニー損害保険株式会社のご支援により設置され、同社による寄贈としては18基目になります。式典にはそらべあ基金のシンボルキャラクターであるホッキョクグマの兄弟「そら」と「べあ」も駆けつけ、環境問題について子どもたちが考えるきっかけをつくりました。

式典の最初に、園の先生がそらべあの紙芝居を

披露。地球温暖化によって北極の氷が溶けてしまったために、一緒に暮らしていたお母さんと離れなければならないようになった「そらべあ兄弟」の物語を紹介しました。

次に、そらべあ基金のスタッフが子どもたちにクイズを出題し、「そら」と「べあ」の涙を止めるために何ができるのかをみんなで考えました。地球が暖くなるのを防ぐ方法の一つは、物を大切にすること。例えば同園にある木製のまこことテーブルは、何と30年もの間、子どもたちが大切に使用してきたそうです。去年からみんなで遊んでいる新しいカラー積み木も、大事に使えばきっと30年後の園児たちも使ってくれることでしょう。

続いては、手回し発電機を使って電気を作る実

験。発電機のハンドルを勢いよくぐるぐる回して扇風機が回り出すと、子どもたちから大きな歓声があき起こり、電気を作ることの大変さを子どもたちに実感してもらえたようです。

そして、お忙しい中、式典に来園された井崎市長は、「そらべあ兄弟が涙を流さなくてすむように、太陽の光で電気を作りましょう」と、子どもたちに優しく語りかけてくださいました。

東京都心まで交通の便が良く、緑が豊かな上は、「母になるなら、流山市」というキャッチフレーズにもあるように、一歩進んだ育児・教育環境を整えているため、若い世帯人口が増えているという流山市。唯一の公立幼稚園である同園に寄贈された「そらべあ発電所」が、環境への取り組みのお役に

立てたらうれしいですね。

幼児教育支援センター附属幼稚園の皆さん、ソニー損害保険の皆さん、関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

### 千葉県流山市 幼児教育支援センター附属幼稚園



## REPORT 温暖化が進むと校舎が水没?! ～東京都大田区 道塚小学校で環境授業を実施～

REPORT

9月26日、大田区立道塚小学校で、5年生100名を対象に地球温暖化と再生可能エネルギー・省エネについての環境授業を行いました。同校では、以前から総合的な学習の時間を使って環境問題への取り組みを行っており、子どもたちはとても意欲的でした。

1時間目は5年生全員に地球温暖化と再生可能エネルギーの授業を行いました。そらべあ兄弟が涙を流している理由から地球温暖化のお話をした後、クイズにも積極的に答えてくれて大変盛り上がりました。

中でも子どもたちにショッキングだったのは、温暖化によって地球の平均気温が4℃上昇すると、道塚小学校も海に沈んでしまう可能性があるということ。地球温暖化は他人事ではないと危機感を

持ったようです。

2時間目はクラスごとに省エネの授業とワークショップを行い、今回の授業にご寄付をくださった、株式会社ディノス・セシールの社員の方々にも参加していただきました。この授業をきっかけに、子どもたちが環境問題を身近に感じ、解決への道を考えるきっかけになればうれしく思います。

道塚小学校の皆さん、ディノス・セシールの皆さん、ありがとうございました。



LEDと白熱電球、  
どっちが省エネかな?



電気を一番使う家電製品は何だろう?



何問できた?地球温暖化クイズ



可愛いウェルカムボードがお出迎え



ソニー損保の小原様(右)より  
園長の木曾様(左)に記念プレートを贈呈



「そら」と「べあ」からみんなに絵本をプレゼント



子供たちに優しく話しかける  
流山市長の井崎様



©Shinzi Katoh

1

2

3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	